

# 皆満寺通信

第23号

## 法語

「すまん」といわれるまで  
「すまんのほこっちだ」ということ  
にさえ気がつかないでいた

東井義雄

「すまん」と頭を下げられて「はっ」とする。言われて、「おう、分かったのなら許したるわ」という態度に出してしまうこともあります。「ごめんね。こっちも言い過ぎた」となることが多いのではないのでしょうか。でも、あくまでも、「こっちも」であって「こっちが」であることは少ないように思う。

「こっちも」である限り、本当に自分の過ちに気が付くことは無いのだらうと思う。でも、その思いもよらない姿に、その姿を通して気付かされることがある。

その姿は鏡だと思ふ。そう領かせるものは鏡に他ならない。理屈や言葉を越えて働いてくる方便の働きかなと思ふ。だって、「他人の悪いところは見たくなくとも見えるのに わが身の悪いところは見せられても見えない」のが僕らの常なのですから。

## 報恩講円成のご報告

早いもので昨秋の報恩講から3ヶ月を経ようとしています。ご門徒の皆さまのご支援を得て滞りなく円成することが出来ました。偏に皆さまのご理解とご支援の賜物と心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

報恩講は真宗門徒にとって何よりも大切な御仏事として大切に継承されてきました。時代の移り変わりと共に伝統されてきたまま維持していくのが年々難しくなってきましたが、その伝統の上でありつつ、時代に則した報恩講がきっとあるはずなので、そんな報恩講をまたご門徒の皆さまとお勤めさせていただきたいと願っています。

今年も例年どおり11月の13日(火) 14日(水)にお勤めいたします。秋にあらためてご案内、御願い申し上げますので、よろしくお願ひいたします。



五具足(仏華一對 燭台一對 香炉一つ)でのお荘厳は報恩講の時だけで、ご家庭のお内仏も同様です。普段は三具足(中央に香炉、向かって左に仏華、右に燭台)となります。打敷もご法事などの時以外にお掛けすることはありません。

## 外部納骨堂改修終了のご報告

ろっかくせいけんどう  
名称を「六角清見堂」に

昨秋より取りかかっていた外部納骨堂の工事が完了しました。



境内南側ほぼ中央にある六角形の建物が皆満寺の納骨堂、六角清見堂です。



く えいっしょ  
入り口上部の「倶會一處」の額

共に一處（浄土）で会うという阿弥陀經の一節が昭和46年当時から掲げられています。当時の責任役員であった榊原孫太郎先生が書いてくださったものです。

この納骨堂は昭和46年3月に行われた宗祖親鸞聖人七百回御遠忌法要を期に建てられました。内部の経年劣化が顕著であったのと、全骨収骨や合祀の要望が多く寄せられていたのでそれに応えられるように改修致しました。

ご存じのように皆満寺には本堂裏には「納骨室」があるので、明確に区別

を出来るようにと、この改修を期に「六角清見堂」と皆満寺門徒の代表者会である総代会で協議して決定いたしました。この名称は六角形の建物で、先々代住職（清玄）の時代に親鸞聖人（見真大師）の御遠忌を記念して建てられたということ表現したものです。

※本堂裏納骨室の名称も「<sup>けんえどう</sup>顕慧堂」と致しました。こちらは先代住職（顕真）の時代に蓮如上人（慧燈大師）の御遠忌を記念してということです。

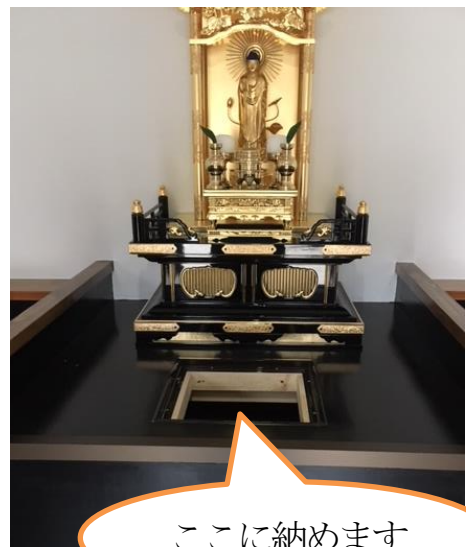
今回の改修は最近要望が多かった

- ①合祀が出来る環境を整備する
- ②分骨／全骨の納骨に対応する

事を主眼に置きました。それに伴い、納骨堂内の本尊や宮殿を洗い、須彌壇や仏具を新調して荘厳を整えました。

ごうし  
①合祀について

合祀は全骨・分骨共に六角清見堂本尊下に骨壺からご遺骨を取り出してそのままお納めします。



※個別でのお預かりではないのでご遺骨の返却は出来ません。

## ② 分骨／全骨について

分骨・全骨は個別でのお預かりとなります。期間は25年で最終年に更新時期を設けることになりました。

収骨可能な総数は

分骨 約360体

全骨 約100体

※既納分を含みます



全骨は下段に

納骨堂内部の様子

## 永代経・納骨規定について

これまでも永代経もご遺骨もお預かりしてまいりましたが、冥加金の改訂などを通知しただけで、きちんとした規定がありませんでしたので、この度外納骨堂（六角清見堂）改修に伴い、永代経・納骨規定を制定いたしました。

※詳しくは今号に同封しました皆満寺永代経・納骨規定をご覧ください。

## 報恩の仏事(1)

### 報恩講のお齋

報恩講でお齋を作らなくなって20年ほど経過しました。かつてはお寺の厨房や境内ではそりを用いて煮炊きをしていました。その頃の光景を覚えておいでのご門徒は本当に少なくなりました。伝統的な報恩講のお齋をご存じではないご門徒が恐らく大半ではないかと思えます。

そこで、伝統的なお齋を名古屋別院の報恩講で提供されているお齋を例にご紹介いたします。

大切にされているのはその食材が「親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ」ことを大切に選ばれているということです。そのことから報恩講のお齋の煮物は「遺徳煮」と呼ばれることがあります。全国的によく用いられているのは大根、ぎんなん、小豆で、何れも聖人がお好きなものであったと伝えられています。

今となっては難しいかも知れませんが、皆満寺でもまた食べる事ができたら良いなあと思います。



名古屋別院のお齋

皆さまどうぞお越し下さい。

## 仏事メモ(1)

### お仏供(おぶく)

みなさん、お仏供はどうやってお備  
えしていますか？適当によそって  
いませんか？

大谷派のお仏供は「モツソウ」とい  
う道具を用いて俵型(円柱)に仕立て、  
ご本尊には一対(2つ)お供えします。

まず、押し出す棒を容器にセットし、  
ご飯を詰め込み(ここでは躊躇せずに  
詰め込みましょう)ます。そして容器  
を仏器に収め、押し固めて容器を外せ  
ば出来上がりです。慣れれば意外に簡  
単にできますよ。



※数は置く場所により一つにしても  
構いません。

### さんかの会開催曜日の訂正

前号(22号)でお知らせした開催曜  
日に誤りがありましたので訂正してお  
知らせいたします。

さんかの会は毎月第2金曜日に開催  
しています。今年からはさらに原則月  
に2回、第4金曜日にも開催します。  
時間は午後1時半から4時頃までです。



昨秋の報恩講で「さんかの会」で作っ  
た塗り絵を展示していただきました。  
その一部をご紹介します。

### 【後書き】

▼ご門徒宅でのご法事で小さな子の  
「疲れた～」という声が僕は大好きで  
す。だって、一生懸命お参りして一生  
懸命正信偈を勤めてくれた証ですから。  
まさに「無二の勤行」報恩の仏事を感じ  
る瞬間です。▼今回も真宗大谷派名  
古屋教区第2組発行の「出遇い」を一  
緒にお届けします。皆さま是非ご一読  
下さい。▼寒い日が続きますが立春は  
目の前です。暑さ寒さも彼岸まで。お  
彼岸には23日10時よりお中日法要を  
お勤めします。どうぞお参り下さい。

「皆満寺通信」 第23号

2018年2月1日発行

〒470-2339

愛知県知多郡武豊町下門137

真宗大谷派 皆満寺

住職 永尾圭吾

TEL 0569-72-0435

FAX 0569-72-0740

URL <http://www.kaimanji.or.jp>

Mail [jinguzan-137@kaimanji.or.jp](mailto:jinguzan-137@kaimanji.or.jp)